
[ICI] (icd.123800000) Daily Systematic Theology by Aguro

One More Paragraph!

- 組織神学的瞑想のひとつ -

2002年11月25日(月):PW:なし

こんにちは、関西聖書学院組織神学教師、一宮基督教研究所の安黒務です。
今日は、ミラード・J・エリクソンの「キリスト教教理入門」の「第三十八章 導
入的事柄と個人終末論」の概略です。

【テキスト】 () 内は、講義数です。

1. 終末論への導入 (20)
2. 死
 - (ア) 死の現実 (2)
 - (イ) 死の性質 (2)
 - (ウ) 肉体の死：生来のものか、あるいはそうでないのか (2)
 - (エ) 死の結果 (4)
3. 中間状態
 - (ア) その教理の難しさ (4)
 - (イ) 中間状態についての最近の見方
 - 魂の眠り (6)
 - 煉獄 (5)
 - 即座の復活 (2)
 - 解決策の示唆 (4)
4. 死と中間状態の教理の意味合い (4)

今回、始まります「第三十八章 導入的事柄と個人終末論」のデイリー電
子メール講義は、合計55講義で、受講料は550円です。希望者は下記の
電子メールアドレスにお申し込みください。すでに申し込みと支払いを終え
ておられる方は結構です。また、マンスリーとウィークリーの方でデイリー
を必要とされない方は無料です。

【 解説 】

先週、「第17章 人間の教理についての導入」の学びを修了しました。次
は18章へと進むのがひとつの選択肢でありましたが、この半年の間にエリク
ソンの組織神学の学びと並行するかたちで、エリクソンの神学著作集を座標軸

にして「**死後伝道問題**」と「**イスラエル問題**」の特別資料を作成することとなりました。これらの問題が起こってくる背景として、宇田進師が述べておられるように「一つ一つのテーマの**注意深い考察**、**一方に偏らない正しい終末論の理解**」という基本的な学びに問題があるのではないかと思います。これらの問題は、組織神学の「終末論」の領域における議論ですので、ここで思い切って「**終末論**」を**基本から丁寧に学ぶ**ときをもつことが時宜にかなっていることではないだろうか、と考えるに至りました。この領域においても、すでにかかなりの書籍や資料を集めておりますが、取り組んでいくうちに新たな書籍・資料の収集の必要も生じてくると思います。経済的な格闘をしつつ、貴重な書籍を日本各地そして世界各地から集めていくこと、これもまた**楽しみなチャレンジ**のひとつです。

今回の学びの「**中間状態**」の学びの箇所ではエリクソンの神学著作集も含めて「死後伝道問題」を丁寧に学びます。また40章の「**千年王国**」の学びの箇所と同様のかたちで「イスラエル問題」を丁寧に学ぶ予定です。
